

第 2 回 館 山 市 議 会 臨 時 会 議 録

1 平成6年4月26日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	16番 鈴木 勝美
17番 鈴木 忠夫	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	21番 神田 守隆
22番 福原 勤	23番 石井 昌治
26番 辻田 実	27番 横溝 功
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 1名

20番 生稻 陞

1 出席説明員

市長 庄司 厚
収入役 川上 義雄
総務部長 神子 純一

助 役 小幡 清之
市長公室長 永野 修

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一
書記 四ノ宮 朗
書記 小山 真

事務局長補佐 鈴木 哲
書記 安田 仁一
書記 松浮 郁夏

1 議事日程

平成6年4月26日午前10時開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 副議長の選挙

日程第4 発議案第4号 館山市議会の議長、副議長及び議員の月額報酬の特例に関する条例の制定について

日程第5 議案第27号 館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認について

開 会 午前10時11分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数25名、これより平成6年第2回市議会臨時会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議長の報告

◎議長（福原 勤君） 本臨時会議案審議のため、地方自治法第121条の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がありましたので、御了承願います。

なお、市長から地方自治法第180条の規定による専決処分が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承願います。

議案の配付

◎議長（福原 勤君） 議案及び説明書を配付いたします。

配付漏れありませんか。―― 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

◎議長（福原 勤君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

3番議員島田 保君、23番議員石井昌治君、以上両君を指名いたします。

会期の決定

◎議長（福原 勤君） 日程第2、会期の決定を行います。

本臨時会の会期につき、議会運営委員会の意見は本日1日ということであり
ます。

お諮りいたします。会期を本日1日と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」「異議あり。質疑を求めます」

と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 鈴木順子君。

◎7番(鈴木順子君) 今議会には大変重要な議題が入っておりますので、
十分な審議を行うためにも、本日限りとはいかがかと思えます。そして、議
会運営委員会の中でどういう議論が行われましたか、委員長としての見解を
求めます。

(何事か呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 鈴木順子君。

◎7番(鈴木順子君) 私が今申し上げたのは、議運では1日限りという今
報告を受けましたが、その中でこういった議論が行われたのかということをお
尋ねしています。

◎議長(福原 勤君) 鈴木忠夫君。

◎議会運営委員会委員長(鈴木忠夫君) 会期につきましては、特に議論は
ありませんでした。

◎議長(福原 勤君) 鈴木順子君。

◎7番(鈴木順子君) それでは、反対討論を行います。

私は、今臨時議会に大変重要な問題が議題に含まれており、十分な審議を
するためにも、本日1日限りでやり切れるものではないという判断によりま
して、反対をいたします。

◎議長(福原 勤君) 御異議がありましたので、起立により採決いたしま
す。

会期を1日と定めますことに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(福原 勤君) 起立多数であります。よって、会期は本日1日と決
定いたしました。

議長の報告

◎議長（福原 勤君） この際、御報告申し上げます。

日下君敏君から平成6年4月8日、一身上の都合により、副議長の辞職願が提出されました。地方自治法第108条ただし書きの規定により、4月8日、副議長の辞職を許可いたしましたので、会議規則第139条第3項の規定により報告いたします。

副議長の選挙

◎議長（福原 勤君） 日程第3、これより副議長の選挙を行います。

議場の閉鎖を命じます。

（議場閉鎖）

◎議長（福原 勤君） ただいまの出席議員数は25人であります。

投票用紙を配付いたします。

（投票用紙配付）

◎議長（福原 勤君） 投票用紙の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

（投票箱点検）

◎議長（福原 勤君） 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。投票は単記無記名であります。投票用紙に被選挙人の氏名を記載の上、点呼に応じて順次投票願います。

点呼を命じます。

（書記氏名点呼、投票）

◎議長（福原 勤君） 投票漏れはありませんか。 — 投票漏れなしと認めます。

投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

（議場開鎖）

◎議長（福原 勤君） これより開票を行います。

会議規則第31条第2項の規定により、立会人に鈴木忠夫君及び斉藤 実君を指名いたします。よって、両君の立ち会いを願います。

（立会人登壇、開票）

◎議長（福原 勤君） 選挙の結果を報告いたします。

投票総数25票、これは先ほどの出席議員数に符合しております。

そのうち、有効投票24票、無効投票1票。

有効投票中、小宮利夫君22票、鈴木順子君2票、以上のとおりであります。

この選挙の法定得票数は6票であります。よって、小宮利夫君が副議長に当選されました。

ただいま副議長に当選されました小宮利夫君が議場におられますので、会議規則第32条第2項の規定による告知をいたします。

副議長のあいさつ

◎議長（福原 勤君） この際、副議長小宮利夫君を御紹介いたします。

（副議長小宮利夫君登壇）

◎副議長（小宮利夫君） ただいま副議長に推挙されました。本当に身の引き締まる思いでございます。もとより浅学非才でございますが、議長を補佐し、真剣になって議会運営に当たりたい、このように考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第4、発議案第4号館山市議会の議長、副議長及び議員の月額報酬の特例に関する条例の制定についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（福原 勤君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（福原 勤君） 議案の説明を求めます。

飯田義男君。

（28番議員飯田義男君登壇）

◎28番（飯田義男君） 提案者を代表いたしまして説明を申し上げます。
発議案第4号館山市議会の議長、副議長及び議員の月額報酬の特例に関する
条例の制定について、提出者を代表して提案理由を御説明申し上げます。

このたび、まことに残念なことではありますけれども、同僚議員の交通違反問題が報道されました。議会におきましては、急速全員協議会を開き、協議いたしましたのでありますが、このことは議員個人の問題ではありますけれども、議会としても市民に対し深く陳謝するとともに、議員1人1人が改めて職責の重大さを強く自覚しなければならないと思います。この際、議員全員の報酬を3カ月間減額し、議会としての責任と姿勢を明らかにすべきであると考え、本案を提出いたしました次第であります。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。

鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） ただいま議題となっております問題は、飲酒運転などによります新聞報道にもございました問題につきまして、全議員の責任として報酬の3%を3カ月間カットしようとしていることにかかわる件と認識をいたしておりますが、この件につきましては協議委員会が構成されまして、その中の反対者の1人を除きます9人の委員が提案者となっておりますが、提案をされました全委員にお伺いをいたしたいと思いますが、酒気帯び運転は、私は当事者の問題ではないかと思いますが、いかがでございましょうか。また、このことによりまして、全議員がなぜ責任を負わなければならないの

か。私は協議会の中に委員として入っておりませんので、こういったことが具体的に議論になったかも存じません。そこで、あえて具体的にお一人ずつのお考えをこの場でお聞かせを願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 1人1人ということでございますけれども、まず代表者としてお答えを申し上げたいと存じます。

この問題はもちろん鈴木議員のおっしゃるとおり当事者本人の問題であり、本人の自覚と反省の上に立って責任をとるべき問題ではあります。他の議員には法的な責任はございません。しかし、再三にわたる交通違反を惹起したことに対する議会としての今までの対応が必ずしもよかったとは思っておりませんし、それに対して深く反省をしておるわけでございます。したがって、このたびの提案は超法規的な措置であり、高度な政治的かつ道義的な見地に立っての苦渋の結論であったわけでございます。これを契機として、当事者本人はもちろん、我々議員もまたその職責の重大性をさらに認識を深めるものと思っておりますので、本案に対する御理解と御協力を賜りたいと思います。当事者以外の議員に対してはまことに申しわけなく存じておりますが、よろしく御協力をお願いしたいという気持ちからこういう発議案を出したわけでございます。

これは1人1人ということでなくて、いかがでございましょうか。私の説明に対してまた御質疑があれば承りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） この際、私は委員会に入っておりませんので、ぜひともお一人お一人のお考えをお聞かせを願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 私はただいま代表の飯田議員がお話をされたとおりでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） 私も協議会の委員としましてその協議に参加しまし

て、その意見を十分反映したのが ― 飯田議員の説明のとおりでございます。
全くそのとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 川名正二君。

◎19番（川名正二君） ただいま代表者であります飯田議員がるる御説明を申し上げましたが、まさにそのとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） 議員として深く反省いたし、決してこの3%で終わることではなく、また身を引き締めてやっていきたいと思っておりますが、飯田議員のおっしゃったとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） 連帯の責任といたしまして、この件についての重要なことをみんなで認識していきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 山崎雅己君。

◎11番（山崎雅己君） 先輩の言ったとおりでございます。それに賛同いたしまして賛成した次第でございます。よろしくお願いします。

◎議長（福原 勤君） 小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） 私もやはり飯田議員がおっしゃったとおりでございますけれども、やはり議員としてのプライドを持つ以上は襟を正して市民に陳謝しなきゃいけない、これはもう全体の責任であるというような考え方から賛同いたしました。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 議会は議会としての権威とプライドを保たなきゃいけないというふうに考えております。こうしたことにつきましては、やはり議会全体として措置をするのが当然であろうということでもって提案議員に賛同をいたしましたので、よろしくお願いいたしますと思います。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 非常に私にとっては不満の残る答弁です。たしか協議会が設置をされまして1時間余り協議をされていたと思うんですが、皆さんその中で同様の議論をなさっていたのかな、1時間もしていたのかなとい

うふうに思います。もっと深刻な、真剣な議論がなかったのかということがどうしても不満として私は残っております。

そこで、この中で月額3%を3カ月間限りカットするとしておりますが、この額の算定根拠はどういったことからこの数字が出てきたのか、代表者の方で結構ですから、これをお聞きをいたしたいと思いますが、そこであえて申し上げておきますが、この件を議決いたしますと、この発議案の文章の中には5月から7月に限りとうたってはおりますが、もしこの議場の中で来期は選挙をしない、議員では出ないとおっしゃる方が——3期以上お務めになった方ですが、いらっしゃるとすれば、年金にもかかわってくる問題なんです。この3カ月間だけで済む問題でないということをあえてここで言うておきたいと思います。その方はこのことによって——おやめになる方がいらっしゃらないならいいんですけれども、これは有権者の意で出てこれなければ、この席に座ることができなければ仕方がないわけですから、好むと好まざるとにかかわらず、それに該当する議員がいた場合は、一生涯このことによって年金という中で責任を負っていかなければならないということもあるということを深刻に考えていかなければならないというふうに思います。このことについてどうお考えになっているのかもあわせて——代表の方で結構ですから、お考えをお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 3%という数字に対しての御質問にお答えいたします。

これは特に具体的な、法的な根拠はございません。市の職員のおおむね同様な事故に対するいろいろな措置、あるいはその他さまざまなことを考慮しながら、3%という数字を出したわけでございます。したがって、法的な根拠はなく、全く高度な政治判断でこういうことを決めたわけでございますので、御了解をいただきたいと思います。

なお、年金に影響する問題については、もちろん我々は考えておりましたが、しかしそれだけ厳しい我々は態度で臨むべきであるという判断に基づいて決断をしたということを御理解賜りたいと存じます。

なお、具体的な問題については事務局で答えてくれると思いますけれども、その点も説明をしていただきたいのでありましょうか、私の方から伺います。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 年金に係る問題につきましては、もしこの場でわかりになればお答えを願いたいと思いますが。

◎議長（福原 勤君） じゃ、議会事務局長に答弁させます。

◎事務局長（兵藤恭一君） 私が答弁する立場ではないとは思いますが、議長のお許しがありましたので、一応お答えをさせていただきたいと思っています。

先ほど御質疑の中でありましたように、これが影響を及ぼすかどうかについては現在のところわからないわけでございます。該当する場合は考えられるということでございます。その影響額につきましては、月額 800円程度ではないかというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） お尋ねをいたします。

交通違反の問題というのは極めて個人的な非行だというふうに私は思うんです。私の質問の前に、先ほどの御答弁で、飯田先生なり全員の提案者の御答弁で、これまで3回に及ぶ交通事故についての責任だという議題ですから、恐れ入りますけれども、植木先生と石井先生にはちょっと席を外してもらいたいと思うんですが。

まず、交通違反の問題で、個人的な非行ということですから、今回の問題で終わりにするということは大変問題がある。当然議会内役職からの罷免あるいは辞職、これはどの事件でもそれなりの措置をしたから、それなりの責任はとったというふうに私も理解いたします。この次にやはりやるべきことは、議会として法律で許されること、できることは何なのかということと考えた場合は、まず問責決議、あるいはさらに辞職勧告決議ということが考えられるし、また個人的な問題とすれば、そういうふうにするのが本来の筋だ。なぜ我々が、全員が責任を負わなきゃならないのか。そういうことをした上

で、なおかつ問題だということで議論するならば、そのときは議論しましょう。しかし、やるのが違うんじゃないか。まず、個人的な問題だと言っているんだから、あなたたち10人全部そう言ったんだから、個人的な問題をどうしてくれるのか、議会として。問責決議をやる気があるのか。少なくとも問責決議をやる気があるのかないのか。いや、辞職勧告決議の方がいいというなら、そういう意見でもいいです。10人の方はどう考えているのか。皆さんで相談して、統一の見解でもいいです。さっきみたいに1人1人答えてもらってもいいです。お尋ねいたします。

次に、辻田議員に質問いたします。あなたは今回の事故の問題で、全員協議会では議員は総辞職すべきだと主張なさった。この総辞職ということと3%のカットというのは大分意見に隔たりがある。なぜ3%が妥当だとお考えになったのか、この経緯について御説明をいただきたい。

次に、秋山議員にお尋ねいたします。先ほどのお話にもありましたけれども、市の職員に準じて3%を考えた。市の職員が交通事故を起こしたらどういふ処分を受けるか。お酒を飲んで処分を受けます。しかし、それだけじゃないんです。物損事故、交通事故を起こせば、市の職員の場合には処分の対象になります。この問題についてあなたはどういうふうにお考えになっているか。私があなたになぜ聞くかという意味はわかっていると思います。

次に、先ほどの御答弁で、お話の中で出ていましたけれども、ちょっと繰り返す面もありますけれども、この3%3カ月というのは約9%。市の職員は酒気帯び運転で交通取り締まりになりますと、これは減給1カ月なんです。10分の1の減給1カ月、これが処分の基準です。そうすると、我々9%が大体それ相応。みんな酒気帯び運転で捕まったという処分なんです、今回は。私にとっては全く心外なことです。なぜ私が酒気帯び運転をして警察に捕まったという処分に相当する処分を受けなきゃならないのか説明してください。

次にお伺いします。今回3回目だということで今回の提案をなされました。ところが、この3回の事件の概要というのはわかったようでわからないんです。全員協議会で本人が申しわけありませんと報告したことがあります。しかし、警察でどういう処分になったのか、行政処分はどうなったのか全然わ

かりません。館山市の職員の処分の場合は、交通取り締まりだと、10分の1の減給1カ月です。だけれども、100万円以上の物損、酒気帯びで物損をやりますと、3カ月の停職です。30倍です、その処分の重さは。だから、私が石井先生に出ていってもらったこと、植木議員に出ていってもらったことの意味がわかると思うんですけれども、こういう問題についての調査はどうなっていますか、ちゃんと責任を持って調査した上で提案していますか、こういう問題をきちんとする意向はありますか、市民の前に明らかにしてください。刑事処分はどうなったのか、どういう処分が出ましたか、そしてどういう損害を担保しましたか。相手の自動車を壊しちゃった。100万円を超える物損事故だと、停職3カ月が市の職員です。日下議員が交通取り締まりで酒気帯びで捕まったことは、これはもちろん大変な問題。しかし、それよりはるかに大きな問題もあるじゃないですか。それを全員が減給だといって事件の真相をやみにやってはだめなんです。大事なことは、市民の中に責任をとるということで、議会の責任は、事実がどうなのかということを市民の中に明らかにすること、そして市民の審判を受けることじゃないですか。来年選挙です。明らかにしてください。この点はそういう意思があるのかないのか、具体的な事実をつかんでいるのかどうなのか、だれでもいいですから答えてください。

余りにたくさんになりましたから、こころで一たん終わります。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 名指しでございますので、その点について私の考えを述べさせていただきます。

最初に、なぜ全員でもって、何もしていない者までがこういう刑事事件に該当するような責任をとらなきゃならないのか、こういう点でございます。確かに議員は個々の人格と、そしてそれぞれのよって立つ支持者、政党があらうかと思ひます。それらの責任と行動という面と同時に、議会は議会として、現在26名いるわけでございますけれども、26名が全体として責任をとらなければならないという議会の権威の問題もあらうかと思ひわけでございます。今回の場合につ

いて、全体で処理をするということにつきましては、やはり私はやっていないからとか、だれがどうだとかというのは、私は議員としての言いわけであらうと思っています。だれがどうあらうとも、議員の中からこうした問題を出したら、議会として市民に対する責任というものは明らかにしなきゃならない。具体的に言いますれば、家族の中でもって自分のせがれが事故を起こした。あれはせがれがやったんだから親は関係ないとか兄弟は関係ないということでは済まされない問題だと思います。議会も同じだと思います。館山市議会という一つのファミリーであると思います。その責任が——ファミリーということについて、私は一定の基準が——連帯としてやろうというふうに判断をして、こういう措置をとるべきだということでもって提案したわけでございますので、その点については御理解をいただきたい。

2番目の点についてお答えをいたします。これは特に私について、全員協議会の中でもって、今回の事故はその内容と経過からいって非常に重要である、我々は真剣に受けとめなきゃならない、これはもう議員総辞職してでもやはりこれを明らかにしなきゃならない、こういう点を発言しました。私はそのように思っておりました。また、直後に支持者なり市民からもそういうことを言われて、まさにそのとおりだという、そういう気持ちでおりました。その点を全員協議会の中でもって率直に申し上げました、そういうことでございます。同時に、それと今度は3%になったので、3%になぜ同調して提案議員になったんだという、この落差が激しいという点でございますけれども、私の意見としてはそういう意見を述べました。しかしながら、自分の意見が通らないからといって、それに固執するつもりはありません。議会全体の合意というのが、やはり3%という線でもっていこうということでもって皆さんが判断されたわけございまして、私は基本的には辞職ということを主張しておりましたけれども、やはり私個人の問題ではございまして、議会全体として合意をしていかなきゃいけない。その場合私が判断をしたのは、3%3カ月というのは責任を示す最低ぎりぎりのものだというふうに判断したわけでございます。それ以下であったんじゃ私は申しわけないと思った。したがって、落差があっても、最高は議員総辞職、そしていろいろ討議

の過程の中でもって、譲れないという一線は今回の３％であったんじゃないか。それは他の議員もほぼそこら辺に一致したようでございましたので、私は、議会としての責任の問題ですから、個人としての責任の問題じゃないので、やはり皆さんとともに協調いたしまして、みんな足並みをそろえて、本当に市民に対して議会の責任を明らかにしよう、こういうことでもってしたわけでございまして、その点を落差と見られるか、どう見られるかわかりませんが、そういう立場でもって対処しておりますので、その点についてはそのように御理解をいただきたい。

３番目の問題でございますけれども、真相究明云々ということでございますけれども、この問題については議会としては議会としての責任があるわけでございます。事件は事件でございますから、刑事事件の問題については警察でもってきちんと処理すべきであって、そして同時に私はこの種の問題については、議会の中でもって、議会活動で起きた問題でありますれば、それなりの措置をとらなきゃならない。例えば、中央におきますところの議員の職務権限によるところの贈収賄だとか、そういうものであれば、これはもう議会の中の問題でございますけれども、今回の問題についてはあくまでも議会を離れて、私生活の中において起きた事件でございます。したがって、これでもって本人がやめるとか、本人が辞職するとか、そういう問題は議員個人として私は判断してもらいたいと思っています。私はいいとか悪いとかは、それは個人の問題だと思っています。それは、その個人の議員がやめることが正しかったのか、やめないのが正しかったのか、こうした態度をとったのが正しかったというのは世間が判断する中身でございまして、議会としてそれを追及するということは、私はそれほど必要じゃなかったんじゃないか。そういう点においては、それぞれの個人が自覚をして、個人の問題として処理すべきだ、そういうふうに考えておるわけでございまして、この点については、個人的には当事者等について十分そういった点については私なりの助言をしてきておるわけでございまして、そのように考えておるわけでございます。

個々の議会の議員の真相究明云々につきましては、前者２名については一

応そういうことでもって全体で合意をして決着して、その決着の文書が議長声明ということでもって、二度とこういうことはいたしません、本当に申しわけありませんということで陳謝して済んでおります。それをまたさかのぼってどうこうということについては、私は余り議会としてはすべきでない。けじめのついたものはけじめつけて次々にやっていかなきゃならない。そして、今回の問題については、またそういう過程を経て今日に至っているわけでございますから、今回議会としてのけじめがついた。あと、個人的な責任云々、それは日下さんの言われたとおりにやるべきだ。議員は少なくとも多数の支持者の選挙でもって選ばれてきているんですから、それはそれとして、人格として尊重しなきゃならない。私はその責任の示し方は該当議員がそれなりに判断すべき問題であって、同僚議員が刑事的な問題に立ち入ってとやかく言うことは今の段階では差し控えた方がいいんじゃないかというのが私の見解でございますので、一応神田議員とは食い違っているかも知れませんが、見解としてはそういう見解を持っておりますので、お答えを申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 代表者として神田議員に対する質問のお答えをいたします。

過去3回にわたっての不祥事という、交通違反という問題でありますけれども、当時私たちがもっと厳粛な態度で臨んでおれば、あるいはこういう事態まで起こらなかったかもしれない。当時、第1回目のときに問責決議なり辞職勧告なり、相当厳しい措置をしておくべきだったなというようなことは今反省をしております。そのときに神田議員も一言そういうことをおっしゃっていただければ、あるいはそういう問題に発展したかもしれない。私たちはそういう過去の甘い我々の考え方あるいは措置、そういったものに対する今厳粛な反省の上に立ってこのような苦渋の決断をしたわけでございます。その点をひとつ御理解をいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） お答えを申し上げます。

私はこの1期のうちに——ということは3年目でございますけれども、交通事故が3件、そして酒が絡んだ事故があるということで、酒と申しましょ
うか、交通事故があったということで、責任の重大さを考え、また議員とし
ての連帯責任においてより強い反省をするためにこのような賛同者になりま
した。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） お尋ねいたしますけれども、厳粛な態度でという
飯田先生のお話でございますけれども、初めのときにもっと厳しくしておけ
ばよかった。今からだって遅くないんです、別に、処分するに当たって。も
う過ぎちゃったからって——もう過去のことだというのが辻田先生です。も
う過去のことだからいい、それはもう問えないというお考えのようですね
ども、別にそんなことないんです。今から問責決議やったって、あるいは辞
職勧告決議だって、皆さんで論議すればいいことじゃないですか。その辺皆
さんどうお考えになっていますか。それをまずやらなきゃ筋が違うじゃな
いですか。市民からも大分そういう点では一体何をやっているんだ。このこ
とははっきり言えば、議員の連帯責任という美名のもとに事実関係を糊塗する、
こういう下心じゃないかという批判もあるんです。だから、ちゃんと議会と
してのけじめをつけるなら、本人たちに対して個人的な問題としてきっち
りと議会としての決議をされたらいかがですか。文案をぜひお考え願いた
いと思います。

それと、今回提案したのは3回目だからということで提案をしたんです。
辻田先生の言うように、1回目、2回目はもう済んで、3回目だけだという、
そういう議論は——1回目、2回目があるから3回目があるんで、これは1
回目、2回目はもう済んだから知らないんだという言い方はちょっと違
うと思います。ちょっと納得できない話で、やはり飯田先生が言うように、
これは全体の問題として考えるということが相当な態度だし、そして警察
の問題、刑事処分の問題なり、あるいは民事上の問題の解決なり、これは
その場ですぐに結論出ないんです。政治的にはすぐという問題があるん
ですけれども、

しかし市が実際に処分するのだって、現実の処分というのは半年先ぐらいに
なったりするわけです。事故が起きてすぐなんかできないです。それは事実
関係が明らかにならないから。当たり前じゃないですか、そんなの。ところ
が、明らかになったでしょう、事実関係が。警察ではどんな処分になったの
か調べてみてください。知っているんですか。本人に聞いてください。だれ
か代表者が責任が持って本人に聞いて、どんな処分だったのか明らかにして
ください。そういう御意思はありませんか。それが市民に対する責任を —
議会として責任をとるということじゃないですか。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 一たん休憩願います。

◎議長（福原 勤君） 暫時休憩いたします。

午前11時05分 休憩

午前11時14分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） ただいま神田議員から御質問をいただいた件につ
いてお答えをいたします。

過去の問題については、当時おおむね概略の事故の状況の報告がございま
した。それによって一応決着をしておると私は判断しております。もちろん
その措置に対しての良否については、今いろいろな観点から反省はしており
ますけれども、一応決着をしております。したがって、私たち9人の提案者
は、それを今さら問責決議、あるいは過去にさかのぼって3人の状況を把握
する義務も責任も持たないわけでございますので、何ともそれ以上のことは
お答えができないのでありまして、その点御了解願いたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そうすると、あなた方の言っているのは理屈が通
らないです。今回3回目だからと言ったんでしょう、提案の説明は。1回目
があって、2回目があって、3回やった。これじゃしょうがないだろうとい

うことでやったんでしょう。だけれども、1回目、2回目はもう済んじゃっているからというんじゃ——1回目はあれで済んで、2回目はこれで済んでということで、そうするとどうなるんですか。全員協議会で聞いた話では——全員協議会での話なんか余りしゃべりたくないです。でもしようがない、こうなれば。あの中で言ったのは当て逃げ事件でしょう。酒気帯び当て逃げという形で報道されました。それから、酒気帯びで物損です。そう言っちゃ悪いですけども、日下先生には大変あれですけども、警察の取り締まりで捕まったのと比べれば、はるかに罪状は重い。はるかに重いんじゃないですか。済んだという形で、そういう神経はちょっと私はわかりません。この問題は不問に付すために、今回こういう形で、連帯責任という名によってこういう事実関係を明らかにすることを——もうこれで責任が済んだという形でやみに葬るための単なる口実にすぎないじゃないか、こういう市民の批判を招いてもやむを得ないんじゃないんですか、これでは。笑い物です。だから、本当に酒気帯びで当て逃げという停職3カ月に該当する事故だったのかどうなのか。私は警察じゃないからわかりません。聞けばいいじゃないですか、本人に、提案者の人たちが。そんなこともできないんですか。意気地がないんですね、そう言われます。私は本当に意気地なしだと思います、そういうことでは。いかがですか。

それと、この問題は私は、まだ大変重要な問題点がありますので、改めて論議をしていきたいと思っておりますけれども、一応3回の中で——議長、もう一回やってもいいのかな。それは議長の判断に任せますけれども。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 神田議員の趣旨はよくわかりましたが、一応提案者としてはこの問題に対する提案理由も説明いたしましたし、皆さんの高度な判断によって議決をしていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） 本案については議会運営委員会に付託いたしたいと
思います。

暫時休憩いたします。

午前 11 時 19 分 休憩

午後 1 時 04 分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数23名、休憩前に引き続き会議を開
きます。

議会運営委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） これより発議案第4号に対する委員会での審査の経
過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

議会運営委員会委員長鈴木忠夫君。御登壇願います。

（議会運営委員会委員長鈴木忠夫君登壇）

◎議会運営委員会委員長（鈴木忠夫君） 先ほどの本会議において付託を受
けました発議案第4号にかかわる議会運営委員会における審査の概要につ
いて御報告を申し上げます。

質疑において、本案を取り下げる考えはないかとの質疑に対し、取り下げ
る考えはないとの回答がありました。

次に、議会として問責決議等をすべきではないかとの質疑に対し、そのよ
うな決議よりも、もっと身につまされる大きな責任感を持ってもらう意味で
本案を提案したとの説明がありました。

討論において、交通違反は個人的な問題であり、連帯で責任をとるべきも
のではない。本人に議員としての自覚を促すというのが議会としてとるべき
本来の筋だと考える。連帯責任をとることは、こうした問題を市民に明らか
にしていこうということをないがしろにするということに結果的になってしま
う。そうした点から認めるわけにはいかない。こうした問題を二度と起こさ
ないために辞職勧告決議をとるべきことを主張するとの反対意見がありまし
た。

採決の結果、付託を受けました議案第4号については、賛成多数をもって

原案どおり可決すべきものと決しました。

以上御報告申し上げまして、議会運営委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 先ほど午前中の会議のときに本会議場で、ちょっと私の不手際で、異議を申し立てたんですが、ちょっと取り扱ってもらえなかったもので、ここでその中で議運が開かれたということについて一言お聞きをしたいんですが、あの中に——この議題はたしか3件の事件のことを言っているわけなんです、あの中に1件目、2件目の議員——たしか石井昌治議員、植木 馨議員が議運のメンバーとしていたと思うんですが、これについてどういうふうに議運として考えていたのか、ちょっとお聞かせ願います。

◎議長（福原 勤君） 鈴木忠夫君。

◎議会運営委員会委員長（鈴木忠夫君） ただいま報告したとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） やっぱり問題の案件の中に該当議員がいるということは、本来の姿ではちょっとおかしいというふうに私は判断します。それで、私も傍聴させていただきましたが、そういったことが行われてしまったわけですけれども、今後のことにつきましても、この場において今後も強くそういうことに対してのきちっとしたやり方で進行してほしいというふうをお願いをしておきます。

◎議長（福原 勤君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。

鈴木順子君。

◎7番(鈴木順子君) 反対の討論をいたします。

まず、冒頭に申し上げておかなければならないのは、今回の前副議長の酒気帯び、スピード違反の問題は、ただ単に前副議長だけのことではなく、任期中3人目ということを重ねた市民の多くの声や議会の中からの声によって議題となっているというふうに思うんですが、議員自らが全議員の報酬をカットして責任をとろうとしていることに対しまして、当事者のこの3人の議員、本当に大いに反省をしてもらわなければならないものです。役職を辞職して責任をとったとしておりますが、多くの市民があなた方の行動の一つ一つを見ていることを忘れずに行動していただきたいというふうにまず申し述べておきたいと思います。

さて、議案についてでございますが、私は議員の責任のとり方として、個人の議員が行ったことに対し、関係をしていない議員がなぜ責任を負わなければならないのか、到底納得のいくものではないという判断でございます。この間の新聞報道によりまして、私のところにはあんたも一緒に飲んでたのかというようなことを何回も、何人にも言われたという経緯がありました。みんなが一緒に報酬カットで責任をとるということは、全議員、みんなが酒気帯び運転をしたということで、同罪だからみんなで責任をとりましょうというようなことになります。私は個人が責任をとるべき問題で、責任のとり方をすりかえるべきではないと申し述べておきます。議員は自らの責任において自らが責任を負うのが筋であり、議会はそのことを慎重に受けとめ、十分な審議を行って、議会として私たちはこういうことをしていきます、というような形で市民に返していくのが本来の姿ではないでしょうか。臭いものにふたをする方式、軍隊じゃあるまいし、連帯責任と言うには余りにも短絡的な発想であるということを指摘しておきます。

また、この議案が通った暁には、多くの県内外を問わず市町村議会が注目をしている。どんな意味合いであろうとも、前例ができるということを重く受けとめて考えていかねばならないと思います。それだけの責任が我々にあ

るということを考えていく上において、とてもこの議案については容認できるものではないということで、反対の理由といたします。

◎議長（福原 勤君） 他に討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

本案についての委員長報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第5、議案第27号館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認についてを議題といたします。

議案の朗読は省略いたします。

議案の内容説明

◎議長（福原 勤君） 議案の説明を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 今議会におきまして御審議をお願いいたします案件は、条例議案1件でございます。以下、提案理由を御説明申し上げます。

議案第27号館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認についてでございますが、地方税法及び地方財政法の一部を改正する法律案が去る3月29日に成立し、同31日に公布となりました結果、館山市市税条例も改正する必要が生じたため、同条例の一部を改正する条例を地方自治法第179条

第1項の規定により専決処分いたしましたので、議会に報告し、その承認を求めようとするものでございます。

今回の主な改正点は、平成6年度分の個人市民税に限り、所得割の20%相当額を特別減税する規定の創設と、低所得者層の税負担に配慮するための所得割及び均等割の非課税限度額の引き上げを行ったものでございます。このほか、法律の改正に基づきまして所要の改正をさせていただきます。なお、詳細につきましては説明資料により御了承賜りたいと存じます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。

神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 市税条例の関係で、説明資料によりますと、固定資産税の関係でいろいろありますけれども、私はたまたま山本地区の固定資産税の評価が今回の評価がえによって非常に高くなったということで相談を受けました。確かに7.1倍とか7.4倍とか、非常に固定資産税の評価額が今回高くなっていて、非常に驚いたわけです。したがって、毎年10%ずつ今後固定資産税が高くなっていくということとなろうかと思うんですけれども、こうした評価がえというのが今回出てきていますけれども、本来評価がえというのは評価の不均衡の是正を図るためにということでありましたけれども、現実には館山市全体として増税になっているというのが今年度の予算の特徴だと思うんです。今ちまたでは、景気が悪い、生活が大変だ、収入がない。減税ということが今国民世論の大きな声になっている中で、館山市ではこの固定資産税ということでは増税という結果になっているわけです。これはやはり政治的に考えてどうなのか。具体的には、都市計画税の税率の引き下げをもって減税も市としてはできるわけですが、こうした増税の実態についてどのようなお考えを持っておられるのか、やむを得ないことだという

ふうな判断を市当局は持っておられるのかどうか、この減税が大きな世論と言われる中で、増税やむなしという、こういうお考えかという点をお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 今の神田議員の質問に答えたいと思います。

固定資産税の関係についての質問なんですけれども、これにつきましては館山市だけの問題じゃなくて、国の方で法律の改正に基づきまして、県下のバランスをとった中での見直しでございまして、先ほど議員が言いましたように、必ずしもその税率の引き上げということじゃなくて、今までの評価の基準といいますか、そういったものを見直すことに大きな目的がございまして、それが結果的に引き上げになっているわけでございますけれども、今回の税制につきましては基準地の見直し、こういったことで御理解をいただければ、こういうふうに思うわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 評価がえの本来の趣旨というのは増税じゃないわけです。しかし、現実にはトータルで見れば館山市の場合増税になってきているわけですから、そのことをどうお考えになるのか。市単独でこれを、固定資産税の評価を下げるということ、これはかなり難しい問題を持っているのは承知しています。そのことは承知しているわけです。しかし、固定資産税と都市計画税は一体のものとして現実には課税されているわけです。これまでも何回も指摘していますけれども、0.3%という都市計画税を制限税率いっぱい取っているのは極めて少ないわけです。館山市は非常に特殊な市なんです。安房郡の中で都市計画税を課税していること自身特殊なわけですから、館山市だけ、こういう現状ですから、ですからせめて都市計画税の減税をもってこの問題に対処することは考えられないのかということを行っているわけで、減税という問題については何らお考えになっていないかどうかという点です。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 御承知のように、地方税法に基づきます課税を

現在しておるわけでございますけれども、その都市計画税につきましてどうなんだという話でございますけれども、これにつきまして、今回特にこの都市計画税についての見直しということはございませんので、あくまでも今回の固定資産税の評価の基準地、それについて公示価格の7割、こういったことで統一的な基準を設けたわけございまして、そういう趣旨から、ひとつ今回の改正は税率の引き上げじゃなくて課税標準の見直し、こういったふうに御理解をいただきたいと思うわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 部長さんのお話はわかりました。

それで、要するに増税なんです。困るんです。懐が痛いんです。私もさっきの議論であれですけれども、生活が苦しいというのは私もなんですけれども、市民の声です、本当に。固定資産税が高くなるということについては、やはり非常に市民の中で——今回の縦覧の中で、ええ、こんなに高くなるのという、そういう声を聞きました、市民の率直な声として。そこで市長さんに、実際そういうことを考えた場合に、政治家としてどういうふうにこれにこたえをしなきゃいけないのか。しょうがない、ここは堪忍してくれということで市長さんはお考えになるのか、いや、それはひとつ考えなきゃいけないことだということでお考えになるのか。今度の評価がえに伴う結果的な増税の問題です。この現実に対して、市長としては市民に対して理解してくれ、こういうことでお考えなのか、あるいはそういう市民の声に対して考えなきゃならぬことだ、具体的な話はすぐにはお示しできないでしょうけれども、考えていることはあるんだということなのか、その辺はいかがですか。市長さん自身のお考えをお聞かせいただけたらと思いますが。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 今回の評価がえに伴うものでございますので、御理解を賜りたいということでございます。

◎議長（福原 勤君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は承認することに決しました。

暫時休憩いたします。

午後 1 時 2 4 分 休憩

午後 1 時 4 2 分 再開

（議長福原 勤君退場）

（副議長、議長席に着く）

◎副議長（小宮利夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程の追加

◎副議長（小宮利夫君） 議長福原 勤君から議長の辞職願が提出されております。

お諮りいたします。この際、議長辞職の件を日程に追加し、議題とすることに御異議ございませんか。

(「異議なし」「異議あり」と呼ぶ者あり)

◎副議長(小宮利夫君) 御異議がありますので、起立により採決いたします。

議長辞職の件を日程に追加し、議題とすることに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎副議長(小宮利夫君) 起立多数であります。よって、この際議長辞職の件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議長辞職について

◎副議長(小宮利夫君) 議長辞職の件を議題といたします。

まず、辞職願を朗読いたさせます。

(書記朗読)

◎副議長(小宮利夫君) 朗読は終わりました。

お諮りいたします。福原 勤君の議長の辞職を許可することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎副議長(小宮利夫君) 起立多数であります。よって、福原 勤君の議長の辞職を許可することに決しました。

(福原 勤君入場)

福原 勤君のあいさつ

◎副議長(小宮利夫君) この際、福原 勤君から発言を求められております。これを許可します。

(22番議員福原 勤君登壇)

◎22番(福原 勤君) 一言お礼を申し述べさせていただきます。

約3年間議長職をやらせていただきまして、皆さん方の温かい御支援と御

協力によりまして務めさせていただきまして、本当にありがとうございました。これからは一議員といたしまして、市民ともども館山市の発展のために尽くしていく所存でございますので、今までどおりひとつ御指導、御協力のほどをお願い申し上げまして、甚だ簡単ですが、お礼の言葉にかえさせていただきます。

どうも大変ありがとうございました。（拍手）

日程の追加

◎副議長（小宮利夫君） ただいま議長が欠員となりました。

お諮りいたします。この際、議長の選挙を日程に追加し、選挙を行いたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（小宮利夫君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

議長の選挙

◎副議長（小宮利夫君） これより議長の選挙を行います。

議場の閉鎖を命じます。

（議場閉鎖）

◎副議長（小宮利夫君） ただいまの出席議員数は25人であります。

投票用紙を配付いたさせます。

（投票用紙配付）

◎副議長（小宮利夫君） 投票用紙の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

（投票箱点検）

◎副議長（小宮利夫君） 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。投票は単記無記名であります。投票用紙に被選挙人の氏名を記載の上、点呼に応じて順次投票願います。

点呼を命じます。

(書記氏名点呼、投票)

◎副議長(小宮利夫君) 投票漏れはありませんか。— 投票漏れなしと認めます。

投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

(議場開鎖)

◎副議長(小宮利夫君) これより開票を行います。

会議規則第31条第2項の規定により、立会人に鈴木忠夫君及び斉藤 実君を指名いたします。よって、両君の立ち会いをお願いします。

(立会人登壇、開票)

◎副議長(小宮利夫君) 選挙の結果を報告いたします。

投票総数25票、これは先ほどの出席議員数に符合しております。

そのうち、有効投票18票、無効投票7票。

有効投票中、辻田 実君16票、神田守隆君2票、以上のとおりであります。

この選挙の法定得票数は5票であります。よって、辻田 実君が議長に当選されました。

ただいま議長に当選されました辻田 実君が議場におりますので、会議規則第32条第2項の規定による告知をいたします。

議長のあいさつ

◎副議長(小宮利夫君) この際、辻田 実君を紹介いたします。

(議長辻田 実君登壇)

◎議長(辻田 実君) 御選任をいただきましてありがとうございました。責任の重大性を痛感いたしているところでございます。

私は、議会運営に当たりましては、私心を捨て、公平をモットーに、信頼される質の高い市議会のために全身全霊を打ち込む所存でございます。未熟ではございますけれども、皆様方の御指導、御鞭撻によりまして職務を全うすることができますよう心からお願い申し上げまして、ごあいさつにかえさ

せていただきます。

よろしく願いいたします。（拍手）

◎副議長（小宮利夫君） 以上で議長と交代いたします。御協力ありがとうございました。（拍手）

（議長、議長席に着く）

◎議長（辻田 実君） 議長を交代いたしました。

閉 会 午後2時01分

◎議長（辻田 実君） 以上で本臨時会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第2回市議会臨時会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 会議録署名議員の指名
- 1 会期の決定
- 1 副議長の選挙
- 1 発議案第4号
- 1 議案第27号
- 1 日程の追加・議長辞職について
- 1 日程の追加・議長の選挙

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会議長

館山市議会副議長

館山市議会議員

館山市議会議員